

膵切除法による術後膵液瘻発生率の後向き研究

研究対象

2010年1月から2013年6月の期間に国立がん研究センター東病院において、膵臓、胆管、十二指腸などの腫瘍に対し、膵頭十二指腸切除という手術を受けた患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義

膵頭十二指腸切除は膵臓周辺の腫瘍を切除するための定型的な手術法ですが、膵臓を切除して消化管と縫い合わせるときに発生する膵液瘻という合併症は時として深刻となる場合があります。入院期間が大幅に延びたり命にかかわることもあります。術後膵液瘻の発生割合は10-30%程度と考えられていますが、膵液瘻を完全に防ぐ方法はまだ見つかっていません。

消化液である膵液の多くは主膵管という管を通っていますが、膵臓を切った断面には目に見えないほど細い膵管が存在しそこを通るごく少量の膵液が漏れることとなります。このごく少量の膵液が主膵管と消化管の縫い合わせを溶かして深刻な膵液瘻に発展する可能性が考えられています。膵臓はメス、電気メス、超音波凝固切開装置などを用いて切除しますが切除する方法によって切った断面の状態が異なり膵液瘻の発生に影響を与えていると思われま

す。そこで、私たちは、膵頭十二指腸切除を受けた患者さんについて、既存資料を集めて、各切除法による膵液瘻の発生率を詳しく調査することとしました。膵液瘻の最も少ない膵切除法を明らかにすることにより今後膵頭十二指腸切除を受ける患者さんにより安全に手術を受けてもらう事が可能になります。

方法

既存の診療録から、対象となる患者さんの背景、手術所見、膵液瘻の発生率、合併症の発生率などについて調査を行います。これらの情報は国立がん研究センター東病院の研究事務局に集められ、必要な解析を行います。本調査研究により新たに発生する検査はありません。

個人情報保護に関する配慮

本研究では情報は匿名化され、個人が特定されることはありません。また、個人が特定されるような情報が院外に出ることはありません。上記の研究対象に該当する患者さんで、ご自身の臨床情報を本研究に使用しないしてほしいというご希望がある方は以下の連絡先にご相談ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 高橋進一郎

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

TEL:04-7133-1111